

| | |
|---------------|---|
| Title | カルガリー大学におけるキャンパスレクリエーションシステムについて |
| Author(s) | 小松, 敏彦 |
| Citation | 大阪外国語大学論集. 15 p.189-p.207 |
| Issue Date | 1996-08-30 |
| oaire:version | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/79709 |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

カルガリー大学における
キャンパスレクリエーションシステムについて

小 松 敏 彦

Campus Recreation System for the University of Calgary

Toshihiko KOMATSU

In the present report I will describe a program called "CAMPUS RECREATION" which is offered by the University of Calgary, Canada. This program system is separate from the faculty of Kinesiology. Campus Recreation consists of four departments. They are as follows.

1. Outdoor Programs
2. Recreational Instruction
3. Fitness and Lifestyle center
4. Recreational Sports

Depending on the season, these four departments offer a variation of unique sporting activities to University of Calgary students and the general public with a basic cost respectively. Annually, there are about 2400 courses. Also, there is a recreational facility (running track, weight training room etc.) open to anyone who wishes to use it except when the University is running a program. In 1994/'95, the facility was used by 412,449 people. This is a big number considering the population of Calgary is 800,000.

When we think of physical education, sports and lifestyle in the future, the successful system of campus recreation offered by the University of Calgary will be helpful.

はじめに

カナダ・アルバータ州・カルガリー市にあるカルガリー大学にて在外研究員として研究に従事する機会を得た。この大学の特徴の1つに優れたスポーツ施設があるが、これは1988年のカルガリーオリンピック冬季15回大会の競技会場の1つを大学構内に建設するという計画に併せて再整備され

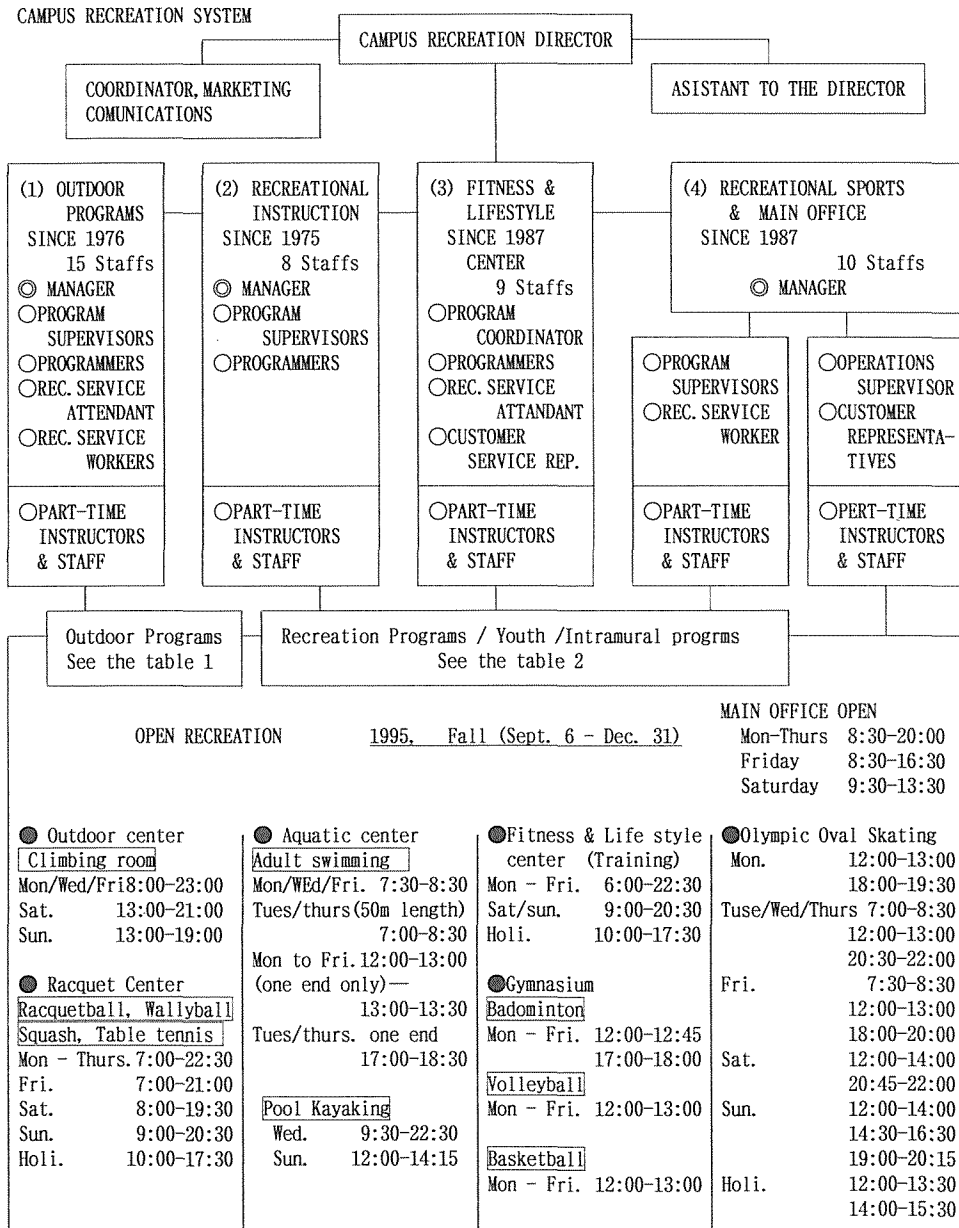


図1 キャンパスレクリエーションシステムの概要

たもので、現在ではそれらの施設をキャンパスレクリエーションという名のシステムを母体としてフルに活用することで、より一層、健康・スポーツ振興に重要な役割を演じている。そして、これはキネシオロジー（体育）学部とは別のもので、学生、大学関係者はもとより、一般市民、短期在住者も利用でき、全てのスポーツ施設及びあらゆるスポーツプログラムを提供している独立したシステムとなっている。

今回このような良いスポーツ環境に接した機会に、このシステムについての調査及びいくつかのスポーツコースを体験してきたのでこれらを合わせて紹介してみようと思う。

1. キャンパスレクリエーションシステムについて

○キャンパスレクリエーションとは

キネシオロジー学部とは独立しているキャンパスレクリエーションは、日本でいえば定めし大学内でのセンター組織また地方自治体の体育・スポーツ課または公立体育館が大学構内に置かれているようなものといえる。

このシステムの概要を図1に示す。1975年に開設されたこのシステムは、現在では、キャンパスレクリエーションディレクターを筆頭にアシスタントコーディネーター、そして4つのスポーツ指導部門で構成されている。その部門は、①アウトドアプログラム、②レクリエーションインストラクション（チルドレン／ユース／アダルト、アクアスポーツ等）、③フィットネス／ライフスタイルセンター、④レクリエーションナルスポーツ（ラケットスポーツ等）である。その各部門ではマナー



写真1 レクリエーションプログラム冊子

ジャーをはじめそれぞれの運営に必要な専任インストラクターおよび事務員が配置され、さらにパートタイムインストラクター、事務員がこれらをサポートしている。なお、専任、パートタイムインストラクターは共にそれぞれのスポーツ種目の公認指導員資格を有している。そして総勢約500名がこのシステムのスタッフとして運営・管理に携わっている。

主な業務は、各部門でのスポーツプログラム（有料スクーリング）の提供とそのスポーツ指導及び施設の管理である。スポーツプログラムは年間2期毎（春／夏、秋／冬、または夏／秋、冬）に

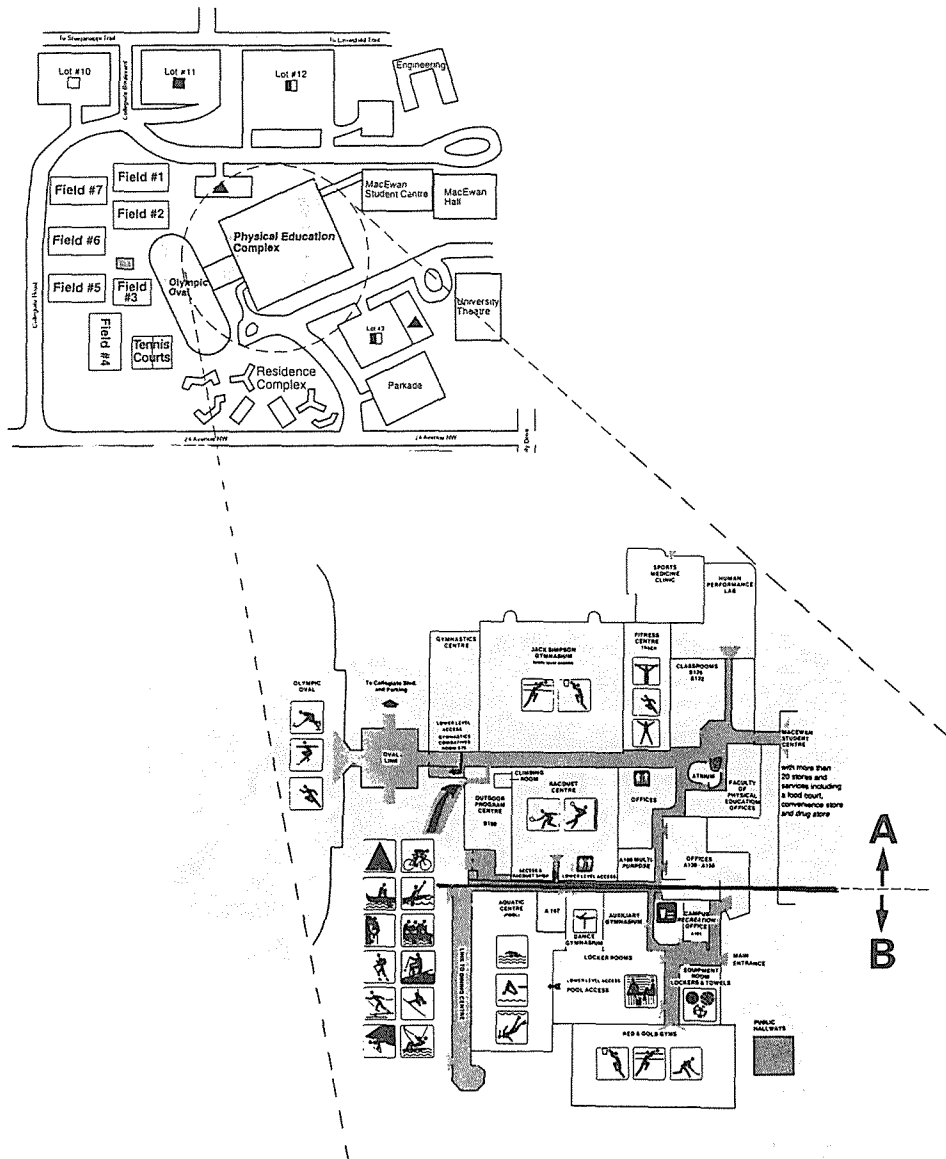


図2 カルガリー大学のスポーツ施設

数冊の小冊子にて紹介され、学内及びカルガリー市内に配布される。受講者はそれらの冊子を見て希望種目への参加申込みをすることになる。今年度（'95-96）の冊子はアウトドア部門2冊（Outdoor programs Summer/Fall と Winter）、他の3部門が合併した冊子5冊（Recreational Programs: Spring/Summer, Fall, Winter と Youth Programs そして Intramural Sports）であった（写真1）。

また、これらと並行しオープンレクリエーションとして施設開館時間内において自由にスポーツを楽しむことができる。これらのスポーツ施設は学部のスポーツ実技授業及び課外運動部活動でも利用しているため、授業等を優先させ、それ以外をオープンレクリエーションとして開放するという方法で上手く共存している。



写真2 メイン屋内運動場

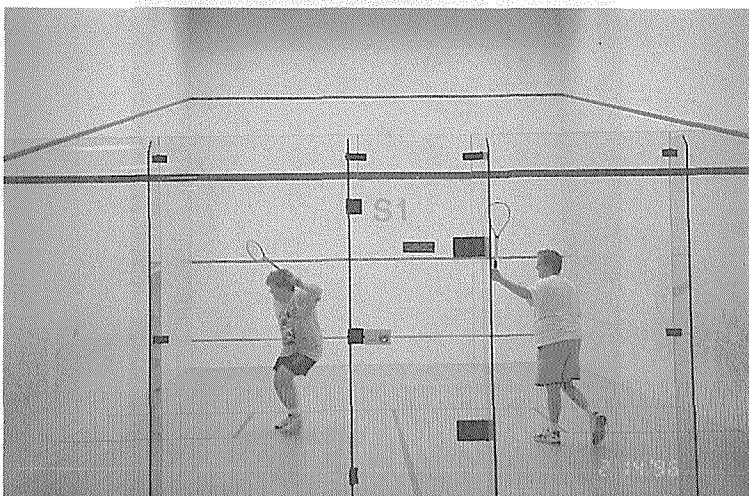


写真3 スクワッシュコート

○施設について

カルガリー大学のスポーツ施設を図2に示す。ここではあらゆるスポーツ活動を十分行えるだけ



写真4 ライフスタイルセンターのトレーニング場

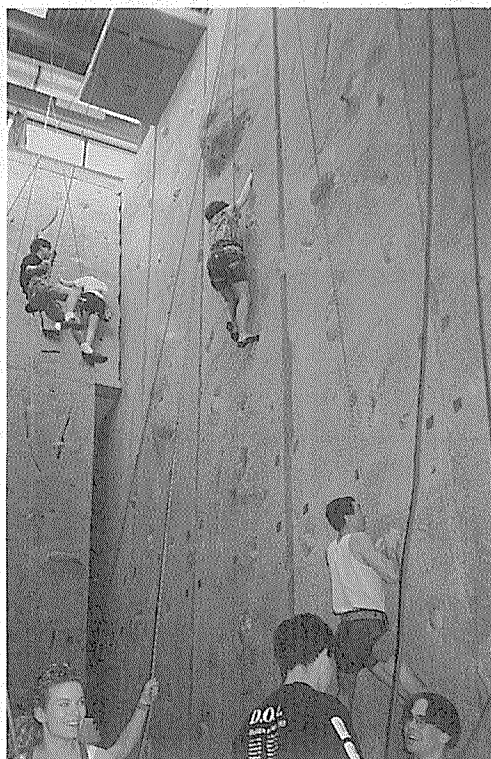


写真5 クライミング練習室

のものを整備されている。メイン屋内運動場ではバスケットボールコート3面のフロアーとそれを囲むように上階に200m陸上用ハードトラック6コースを備え（写真2）、さらに、中型の体育館が2館（バスケットボールコート各2面分）、ダンス場2室、体操競技専用体育館、スクワッシュコート13面（写真3）、ラケットボールコート7面、バドミントンコート6面、フィットネス／ライフスタイルセンター（3750m²のトレーニング場：写真4）、クライミングルーム1室（写真5）、プール（50m8コース、ダイビングプール：写真6）、カルガリーオリンピックの会場であったアイススケートリンク（Oval：400mアイストラック、フィールドリンク2面：写真7）である。一

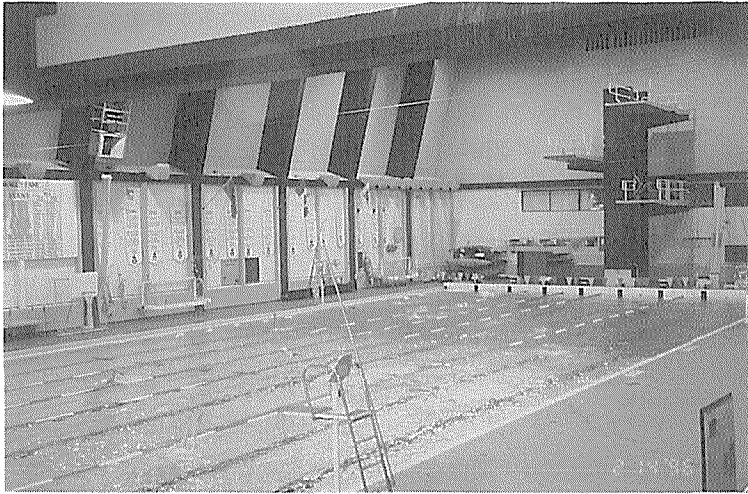


写真6 プール

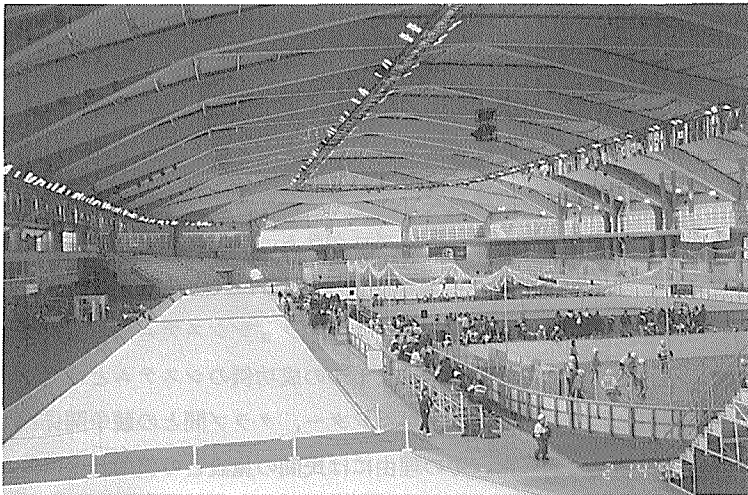


写真7 カルガリーオリンピックの会場であったアイススケートリンク（Oval）

方、屋外運動場ではサンドバレーコート3面、テニスコート6面、屋外運動場7面（サッカー、ラグビー、ラクロス、ソフトボール、フットボール、フィールドホッケー共通、その内夜間照明3面）、マウンテンバイク等の練習場を有している。その他、ミーティングルーム、更衣室（ロッカー、トイレ、シャワー等）がある。

○現在までの経緯

約20年の歴史を持つこのシステムは、在学生在が大学に納入する諸費用に含まれているレクリエーション費用の活動支援として、大学がレクリエーションプログラムを提供するということのスタートであったという。したがって、もともとこのシステムは学生のみを対象にしたレクリエーション、スポーツシステムであった。また、開設当時はレクリエーション・インストラクションの1部門による運営で、その翌年にアウトドア部門が開設されるというものであり、当時のスポーツ施設は現在の施設の半分程度で全学生のレクリエーション活動を賄うには狭かったという（図2に示す破線の下側：Aブロックのみ）。スポーツ施設の拡大構想は以前からあったものの実現には至らず、それが1988年のカルガリーオリンピックの開催準備としてアイススケートリンク場（Oval）をカルガリー大学構内に建設するという計画案に伴い、タイミングを合わせて施設拡大構想であった現在のBブロック施設の増設の実現をみたようである。その増設施設には、ライフスタイル&フィットネスセンター、ラケットセンター等が含まれており、同時に増設後はそれらを中心にするライフスタイル&フィットネス、レクリエーション・スポーツ部門が開設され現在に至っている。なお、スケートリンク場の建設計画はオリンピック開催市が頭を悩ますところのオリンピック後の施設の維持・管理の困難さを解決すべく、オリンピック終了後は施設を大学に寄付することで、大学がその施設の機能を保持させるというものであったという。

市民への解放については、大学の休業期間（5月から8月末まで）での学生の帰省、旅行等による利用者の減少をみて、市民向けのスポーツプログラム考案したものがきっかけとなり、その後の利用者の需要に伴い継続してきた結果が現在のシステムまで成長しているという。しかし、大学側の姿勢としてはあくまでも学生を中心に考えているシステムということであった。

運営面については、開設当時はその運営費の80%を前述の学生のレクリエーション費用で賄っていたとのことであるが、施設の増設、スポーツプログラム、レンタルシステムの充実に伴う利用者増加によって、現在では学生費用（現在の全学生数は約25000人）の割合が全体の25%程度になっているという。したがって、このキャンパスレクリエーションシステムにとってはオリンピック開催の功績は大きく、それをバネに急成長を遂げた1つの成功例のシステムといえよう。

また、一般市民の利用に関する民間スポーツセンター、クラブ間との競争関係については、これまで特に問題は無いとのことであった。その理由には民間の施設との使用料金に差がほとんどないこと、提供スポーツコースの中には民間スポーツスクールに依頼しているものもあり、それなりに互いを認めているのであろうということであった。ただ、将来的にカルガリー大学の学生数の減少

が予想されるとのことで、その対応を考える時期が来るであろうとのことであった。

○キャンパスレクリエーションの利用方法について

これらの各部門で提供しているスポーツプログラムへの参加は、レクリエーションスポーツ部門に置かれているメインオフィスまたはそのプログラムを管轄している部門に出向くか電話で申し込みをし、同時に所定の料金を納入する。また、そのコース実施時には障害事故に対する自己責任の誓約書へのサインをする。

一方、オープンレクリエーションの利用も有料であり、その使用料金は表1のようになっている。カルガリー大学在学生会は学費等の諸費用の中にこの料金が含まれるために自動的に年会員となるが、その額の低料金なのが興味深い。

会員によるオープンレクリエーションへの利用者は、まずメインオフィスに設置されている受け付けに相当する Equipment room にて会員カードのバーコードで使用登録を行うと同時にリストバンドを受け取り、必要に応じて実施種目の用具を借用する（写真8）。このリストバンドは施設利用中に手首につけておくものである。なお、オプションとしてバスタオルを始め、筋力トレーニング

表1 キャンパスレクリエーションの使用料金（カナダドル）

| 年間費 | 一人 | 家族 | 成人1日券 | \$5.00 | 1日ロッカー使用 | \$1.00 |
|-----|----------|----------|-----------------|---------|-----------|---------|
| 一般 | \$405.00 | \$645.00 | 子供/老人 | \$2.00 | 1ヶ月ロッカー使用 | \$75.00 |
| 卒業生 | \$325.00 | \$520.00 | 1ヶ月券 | \$45.00 | タオルサービス | \$1.00 |
| 教職員 | \$225.00 | \$360.00 | 家族券 | \$10.00 | | |
| 在学生 | \$35.00 | —— | クライミング ルーム使用 | \$5.00 | | |

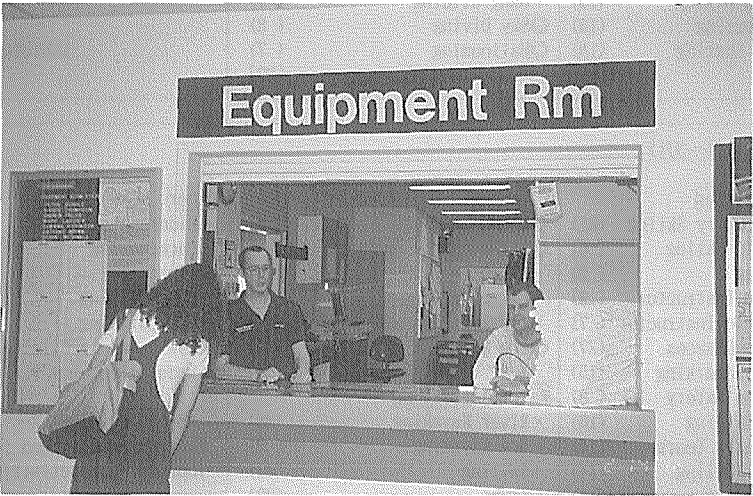


写真8 オープンレクリエーションを利用する際に登録する受け付けカウンター

用のウエイトベルト、CDウォークマン、スポーツウォークマン等、最近はやりの goods も借用できるよう準備されている。そして終了後はリストバンドや用具の返却と個人カードのバーコードチェックを行っての退館となる。

施設の使用時間帯は、各部門毎に決められており、図1の下段には1995年秋の施設とその時間帯を紹介した。季節により多少の変動はあるものの、ほぼ似たものとなっている。施設によっては早朝から夜遅くまでやっているところも見受けられ、大学内は1日中利用者が賑わっている。

ちなみに、このキャンパスレクリエーションへの過去5年の利用者は、90/91年が延べ365,188人、91/92年が延べ384,607人、92/93年が延べ401,375人、93/94年が延べ421,007人、そして94/95年が延べ412,449人となっている。なお、入手した資料には、各部門毎、利用者毎（学生、一般、大学関係者、留学生、研究性など13の利用者別）に詳細にまとめられている。

表2 (1) アウトドア部門で提供しているコース

| <u>Summer/Fall (4月~10月)</u> | | |
|-----------------------------|--|---|
| <u>Mountain Activities</u> | | <u>Water Activities</u> |
| ◎Hiking (29) | | • Fly Fishing (4) |
| • Map & Compass (16) | | • Canoeing Programs (56) |
| • Bear Safety (6) | | • Canoe Instructor Courses (6) |
| ◎Backpacking (36) | | • River Kayaking (75) |
| ◎Climbing (79) | | • Sea Kayaking (54) |
| • Mountaineering (9) | | ◎River Rafting (19) |
| • Youth Climbing (3) | | • Windsurfing (23) |
| • Caving (3) | | • Sailing (32) |
| • Spring Ski Tours (2) | | • Scuba (36) |
| [182] | | [305] |
| <u>Wheeled Sports</u> | | <u>Wind Sports</u> |
| • Cycle Repair Clinics (42) | | ◎Paragliding (7) |
| ◎Mountain Biking (19) | | • Hang Gliding (7) |
| • Cycle Touring (13) | | ◎Sky Diving (8) |
| ◎In-line Skating (18) | | ◎Ballooning (7) |
| [92] | | [29] |
| | | <u>Other</u> |
| | | • Horseback Riding (26) |
| | | • First Aid (10) |
| | | • Elderhostel Programs (3) |
| | | • Youth Programs (29) |
| | | [68] |
| | | <u>Outdoor Equipment Rentals</u> |
| | | • Everything you need for your outdoor activities |
| | | Subtotal [676] |

| | |
|----------------------------|--|
| <u>Winter (11月~3月)</u> | |
| <u>Snow Activities</u> | <u>Climbing</u> |
| ◎Cross Country Skiing (81) | ◎Climbing Wall (5) |
| • Family XC Skiing (6) | ◎Climbing Lessons (84) |
| • Skijoring (3) | • Climbing Club (6) |
| ◎CANSI XC Instructor (9) | • Climbing Trip (2) |
| ◎CANSI Tele-Instructor (7) | • Crevasse Rescue (6) |
| ◎Telemark Lessons (27) | ◎Ice Climbing (6) |
| • Power Telemarking (15) | [109] |
| • Avalanche Safety (8) | <u>Water Activities</u> |
| • Winter Camping (10) | • River Kayaking (38) |
| • Backcountry Tours (14) | • Sea Kayaking (3) |
| ◎Downhill Skiing (14) | • Sailing (41) |
| ◎Snowboarding (14) | • Scuba (20) |
| ◎Snowshoe Programs (6) | [102] |
| [214] | |
| | <u>Other</u> |
| | • Elderhostel (2) |
| | • Backpacking (5) |
| | • first Aid (7) |
| | • Hung Gliding (3) |
| | • Para Gliding (3) |
| | • Cycle Repair Clinics (16) |
| | • Free Slide Show * (10) |
| | [46] |
| | <u>Outdoor equipment Rentals</u> |
| | Everything you need for your outdoor activities |
| | Subtotal [471] |

○スポーツ・プログラムについて

前述のスポーツプログラムの一覧が表2, 3である。表2には①アウトドアプログラム部門で提供しているスポーツ種目, 表3には②レクリエーション・インストラクション, ③フィットネス／ライフスタイルセンター, ④レクリエーション・スポーツ部門で提供しているスポーツ種目をそれぞれの冊子を基に作成した。各種目内容のニュアンスを正確に伝えるためにも英語表記のままにしてある。() 内の数字はその種目での開設コース数, [] はその小計である。双表で重複して

表3 ②レクリエーション・インストラクション, ③フィットネス／ライフスタイルセンター, ④レクリエーション・スポーツの3部門で提供しているコース

| Spring/Summer (5月1日～9月4日) | Fall (9月6日～12月31日) | Winter (1月1日～4月30日) |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Personal Fitness Services (13) • Trym Gym (24) • Fitness Classes & Courses (36) • Leadership Certification (14) • First Aid & CPR (5) • Adult Dance & Gymnastics (2) • Skating, Racquets & Aquatics (38) <p>[108]</p> | <ul style="list-style-type: none"> • Personal Fitness Services (8) • Health Promotion Programs (11) Trym Gym, (8) Health Outreach Team (5) • Strength & Conditioning (14) • Runing Programs (6) Honolulu Marathon (1) • Fitness Classes (5) • Registered Fitness Classes(10) • Special Interest Program (3) • Leadership Certification (12) • First Aid & CPR (11) • Coaching Certification (8) • Combatives (4) • Gymnastics (14) • Dance (5) ◎Racquets (34) • Adult Skating (9) • Hiking & Backpacking (11) • Skills Clinics (2) • Canoe School (3) • Caving (1) • Equestrian (8) • Cycling and repair courses(11) • Gliding and Ballooning (6) • In-line Skating (1) • Scuba (8) • Adult Aquatics (8) <p>[380]</p> | <ul style="list-style-type: none"> • Personal Fitness Services (10) • Health Promotion Programs (9) Trym Gym, (8) Health Outreach Team (7) • Fitness Classes (4) • Registerd Fitness Classes (9) ◎Strength & Conditioning (17) • Special Interest Programs (3) • Runing Programs (6) Honolulu Marathon (1) • Leadership Certification (9) • First Aid & CPR (11) • Coaching Certification (8) • Combatives (5) • Gymnastics (9) • Dance (8) • Racquets (36) • Adult Aquatics (8) • Adult Skating (5) <p>[173]</p> <p>Subtotal [661]</p> |
| <p>Youth Programs</p> <p><u>Spring</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Recreation Program (9) • Pre-School Gymnastics (49) • Recreational Gymnastics (34) <p>(38)</p> <p>[92]</p> <p><u>Summer</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Aquatics (73) • Summer Programs (20) • Fitness Training & Assesment(2) • Gymnastics (41) • Sport Schools (30) • Be Yuor Best (4) • Dinosaur Development Camps (51) • Mini-University (18) <p>[238]</p> | <p>Children & Youth Programs</p> <ul style="list-style-type: none"> • Youth Aquatics (46) • Children & Youth Programs (15) • Fencing (1) • Wado Kai Karate (1) • Youth Fitness Services (4) • Youth Skating (36) • PreSchool/Youth Gymnastics(61) <p>[164]</p> | <p>Children & Youth Programs</p> <ul style="list-style-type: none"> • Youth Aquatics (46) • Youth Skating (37) • Youth Fitness Services (5) • PreSchool/Youth Gymnastics(71) • Youth Programs (13) • Fencing (1) • Wado Kai Karate (1) <p>[174]</p> <p>Subtotal [576]</p> |

紹介されている種目があるものの、これらを単純計算すると年間を通して合計2384にも昇るコースが開設されている。

表2のアウトドア種目では文字どおり野外活動であるので、ある程度集中した時間が必要なキャンプや遠距離郊外で実施するものが数多くある。そのためこれらのほとんどの種目には事前講義がある。これは、集合時間、場所、用具、所持品等の確認を始め、その種目を実施するための知識を教授する講義・ビデオ講義等が行われる。アウトドアプログラムセンターでは専用講義室を有し、また、開設種目に関する用具は全て割安で借用することができる。

表4 フィットネス／ライフスタイルセンターとアクアテックセンターでの提供種目とコース

| | |
|--|---|
| <p>Life Style Center</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Personal Fitness Services <ul style="list-style-type: none"> ・ Fitness Appraisal ・ Fitness Consultation ・ Personal Fitness Training <ul style="list-style-type: none"> Introductory packages 1) Basic 2) Premium 3) Comprehensive ・ Personal Fitness Training Sessions ・ Professional Nutrition Counselling ・ Healthy Lifestyle Choices for Students ○ Health Promotion Programs <ul style="list-style-type: none"> ・ Trym Gym, ・ Healthstyles-10 week program ・ Pre Teen/Teen Lifestyle Program ・ Fibromyalgia fitness/support program ・ U of C student (University of Calgary) 6 week weight loss program ・ Follow-up Services ・ Health Outreach Team ・ Nutrition Mini Series <ul style="list-style-type: none"> #1 Carbohydrates, Protein and Performance #2 Fat and its Effect on Disease #3 Supplements- Who? When? Why? #4 Nutrition for Woman ・ Great Expectations ・ Post Great Expectations ・ Back Power Program | <ul style="list-style-type: none"> ○ Registered Fitness Classes <ul style="list-style-type: none"> ・ Basic Registered STEP ・ STEP or SLID Teach Workshop ・ REZ Fitness ○ Strength & Conditioning <ul style="list-style-type: none"> ・ Introductory Strength Training level 1 ・ Introductory Strength and Conditioning for Mature Adults ・ Strength Conditioning for persons with physical Disabilities ・ Women on Weights ・ Women on Weights 2 ・ Boxing Circuit ・ Pre Season Ski Conditioning ・ Deep H₂O Running ○ Special interest programs <ul style="list-style-type: none"> ・ Hatha Yoga ・ Prime Time Movers ○ Fitness Classes <ul style="list-style-type: none"> ・ Low impact, Staff, Kiometer, Superfit CV(CardioVascular)pump, Earlysird, Cardio Funk, Kick Butt 1, Kick Butt 2, Total body workout, Total stretch, SLIDE step Programs:Cross step, Step'n Sculpt, XS Step, Step Funk, 2D step ・ Intensity levels:Basic, Intermediate, ・ Advanced |
| <p>Aquatic Center</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Aquatics Programs <ul style="list-style-type: none"> ○ Swimming Lessons <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 classes, 1hour in duration ○ Aquasized <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 classes, 1hour in duration ○ Aquatic certification <ul style="list-style-type: none"> ○ Bronze Medallion & Senior Resuscitation <ul style="list-style-type: none"> ・ 24 hour course, with 8 classes and exam date ○ Bronze Cross (BC) <ul style="list-style-type: none"> ・ 21 hour course, with 7 classes and exam date | <ul style="list-style-type: none"> ○ Youth Aquatics <ul style="list-style-type: none"> ・ Water Babies (3 to 18 month) ・ totters (1 1/2 to 3 years) ・ Seals (3 to 4 years) ・ Flippers (4 to 5 years) ・ Sharks (5 to 6 years) ○ Learn to Dive (9 to 18 years) <ul style="list-style-type: none"> ・ New divers ・ Advanced Beginner Divers ・ Intermediate 1 divers ・ Intermediate 2 and Advanced divers |

表3の種目では、3部門ともほとんど学内で開設されているコースで、1コースが数回あるいは数週間にわたって展開されており、その人数も各種目毎の至適人数となっているようである。例えば、筆者が秋期に受講したラケット種目の中のスクワッシュコースは週2日（月・水の18:00-19:00）、6日間コースであり、登録の上限は10名であった。また、実施時間帯も一般利用者を考慮して、夕方から22:00頃までの間に多数のコースが開設されていた（勿論、日中コースもある）。

そしてこれらスポーツ種目、コースの内容はプログラム冊子および受講登録時に受け取る資料に詳細されている。なお、全ての種目を解説することは困難なので、ここでは特に表3の種目の中でも日本においてポピュラーと思われるフィットネス／ライフスタイルセンターとアクアティックセンターで提供している種目のコース名のみを表4に紹介する（例えば、表3の Spring/Summer での Personal Fitness Services という種目はライフスタイルセンターで提供しているもので、それには Fitness Appraisal, Fitness Consultation, Introductory Packages 以下表4のように）。興味をそそるコース名も見受けられることと思う。

ちなみに、表3内の◎印は筆者が日本ではなかなかできないスポーツを体験したと思い、受講したもの（21種目、26コース）である。次に筆者が体験した幾つかのアウトドアコースの雑感を紹介したいと思う。

▲Mile High Skydive

'95-8-14（月） 19:30-21:30 アウトドアプログラムセンター講義室（講義）

'95-8-21（月） 9:00-12:00 Okotokos Airport

事前講義ではビデオ教材により、各種スカイダイビングの紹介とそのテクニックの解説があり、その後、飛行機から飛び出した後の空中姿勢と落下中の高度計とパラシュートのノズルの確認、そしてパラシュートを開くタイミングを机上にて練習した。実施当日は、すばらしい晴天に恵まれた。Okotokos という民間飛行場で行い、小さなセスナにインストラクター、カメラマン、筆者と乗り合わせ10000フィート上空まで移動した。その間に「この飛行機は大丈夫か？落ちないか？」とインストラクターに聞いたら、「競争するか」と笑っていた。恐怖心はそれ程なかったが、飛行機のもの凄い騒音も手伝ってか、飛び降りる瞬間は何とも形容しがたいものがあった。飛び降りてからは、「あっと」という間のことで、無重力感覚とはどんなものかを感じてみたかったが、そんな余裕はなかった。パラシュートを開いた後はのんびりと下界を眺めながらという着陸であった。

▲Introduction to Day Hiking（3回コース）

'95-9-14（木） 19:30-21:30 アウトドアプログラムセンター講義室（講義）

'95-9-17（日） 8:30-18:00 Little Highwood Pass

'95-9-24（日） 8:30-18:00 Rae Lake

'95-10-1（日） 8:30-18:00 Chester Lake & Meadows

2時間の事前講義によって、ハイキング用具、ハイキング場、ハイキング方法などの解説及び集合場所、所持品などの確認を行った。場所は3カ所共アルバータ州西部のバンフ国立公園よりカルガリー寄りにあるカナナスキスカントリーという自然公園であった。それぞれ約20名の参加者で、また、好天気に恵まれすばらしい景色の中でいい汗をかくことができた。女性2人のインストラクターによる指導であった。第1日目のハイキング1週間前に公園内で熊による人襲事故が発生していたので、参加者の1人がハイク出発前のミーティングでインストラクターにガンは持ってきたかと聞いていたが、ガンはないが熊避けスプレーはあるのでたぶん大丈夫との返答であった。どんなスプレーかは見なかったが、蚊じゃあるまいし、どんな効果があるのか、向かい風でも効くのかと思ったりしたが、熊の生々しい足跡に出会ったものの本体には会わなかったので幸いであった。また、日頃から万歩計を活用しているので、話題提供のつもりで帰りがけに今日のハイキングは15649歩、歩いたと話したら年配のご婦人に「日本人は歩いた数も気になるのか」といわれた。

▲Snow and Ice Long Weekend

'95-10-6（金）20:00～'95-10-9（月）18:00 Columbia Icefields

アルバータ州北部の観光名所でもあるコロンビアアイスフィールド、アサバスカ山登頂を目指した週末3泊4日の体験実習であった。初日の20:00に現地キャンプサイト集合と同時にミーティングを行い、また、宿泊方法はキャンプサイトでテントを張るかユースホステルであった。参加者は14名で、実習第1日目は、登山のためのロープテクニック、アイサック、クランプオンテクニック及びその登山方法についての解説と実習であった。2日目はアイスフィールド上でのレスキューテクニック及び半登山で足慣らしをし、そして3日目にアサバスカ12時間登山というものであった。午前4:00のまで夜が明けぬ前に集合して登山開始となった。途中から猛吹雪に見回れながらも何とか登っていったものの、山頂付近では氷の筈が雪が膝上まであり、もう少しで頂上というところだったらしいが、これ以上は危険との判断でやむなく下山。クランプオンを使うことなく、また、視界は数mという感じであった。北海道育ちなので吹雪には慣れていたものの、さすがにもの凄く、これを強行すると事故につながるのだらうということを体感した。結局、登下山時間は8時間程であった。

▲Paraglaiding

'95-10-19（木） 19:30-21:00 アウトドアプログラムセンター講義室（講義）

'95-10-21～22日（土、日） 8:00-12:00 Cochrane

事前講義ではこの類のスポーツの歴史およびテクニックの概要をビデオを基に解説があり、その後、講義室内でパラグライダー（キャノピ、ハーネス）の装着と操作方法のデモンストレーション及び実習地集時間等の確認があった。

実習地では、まず各個人でパラグライダーを装着後、キャノピ装着を1時間ほど練習し、その後、

室内にて天井から吊り下げられた練習用パラグライダーによって、空中での進行方向を調節するハンドル操作のシミュレーショントレーニングを行った。そして、標高差 100 m の丘の上からの実際のフライングを楽しんだ。飛行時間は約3分であった。あまりの面白さに1セット購入しその後もフライング技術の向上に努めた。

▲Canadian Association of Nordic Ski Instructor (CANSI), Telemark Ski Instructor Level 1 Course

'96-1-7 (日) 9:00-16:00 Pre-course Sunshine Village Ski Place

'96-1-19~21 (金~日) 9:00-16:00 Maimcourse Sunshine Village Ski Place

バンフ国立公園内にあるサンシャインビレッジ・スキー場にてテレマークスキーインストラクターライセンスのプリ・コースと3日間のメインコースであった。

プリ・コースは10数名の受講者であった。インストラクターによる技術解説とその技術練習を行った。テレマークスキー技術は日本では馴染がなく、カナダにて覚えてだけに不安なところもあったが、何とかプリ・コースをクリアできた。

メインコースでは異なる日に実施された他のプリコースの合格者を含め10名の受講者であった。昨年11月にダウンヒルスキーのインストラクターライセンスを取得していたので、これも何とかできるだろうと思っていたのが甘かった。プリコースとは大きく異なり、テレマークの技術は非常に奥が深いものであることを痛感した。独特なテレマークターン時の加重移動のコントロールが非常に難しく、特に外向傾動作の重要性を感じた。日本ではほとんど普及していないと察するが、今後末長くライフスタイルへのスポーツとして取り入れ、また是非指導する機会を設けたいと思った。結果はわずかに合格点に及ばず不合格。なお、終了時に再試験も可能であることを聞き、その後練習に励んだ。再試験を受験し合格となった。CANSI テレマークインストラクターレベル1取得。

▲Introduction Snowshoeing

'96-2-4 (日) 8:00-16:00 Chester Lake

スノーシューズ(写真9)を履いての雪山の深雪ハイキングである。スノーシューズは日本の「かんじき」に相当し、最近のものはアルミフレームで足底屈運動が可能で歩きやすい構造になっている。実施場所は、カナダスキスカントリー内にある Chester Lake ハイキング場であった。まず午前8:00に大学のアウトドアセンターに集合し、Chester Lake の場所と集合場所を確認したあと各自の出発となった。10:00頃から講習開始となり、スノーシューズの解説、使用方法、登山方法、そしてウォーミングアップを兼ねた簡単なゲームによる足慣らしがあった。その後、30分ほど山中を散策して昼食となり、午後は 2.5 km のハイキングコースでのスノーシューイングを楽しんだ。このシューズを用いると、50 cm 程の積雪上(林間)を楽に歩き回ることができる。筆者としてはこのようなスノーシューズは日本では見たことがなかっただけに大変興味深く取り組めた。丁度、日本から友人が来ていたので一緒に良い汗を流し、今後の日本導入についての議論を交わした。

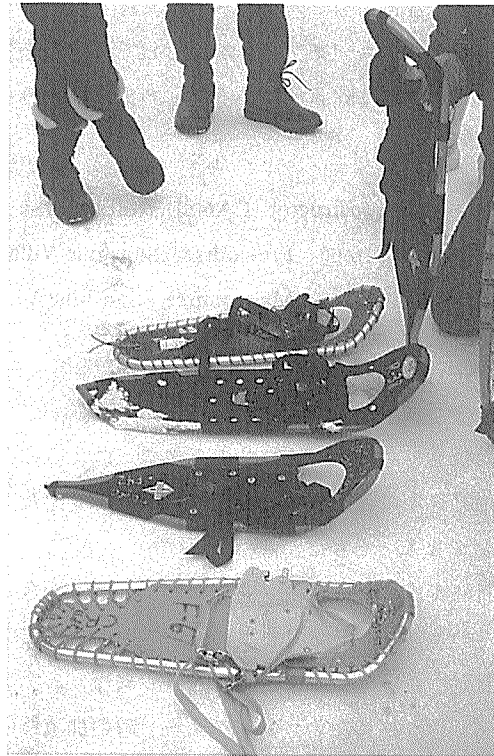


写真9 スノーシューズ

▲Canadian Association of Nordic Ski Instructor (CANSI), Cross Country Ski Instructor Level 1 Course

'96-1-26 (日) 9:00-16:00 Pre-course Canmore Nordic Center

'96-2-10~11 (土, 日) 9:00-17:00 Maincourse Canmore Nordic Center

カルガリーオリンピックのノルディック種目が行われた CANMORE ノルディックセンターでクロスカンリースキーインストラクターライセンス取得のためのプリコースとメインコースであった。

プリコースでは10数名の参加者で、指導員によるクロスカンリースキー技術の一通りの解説の後、その指導に伴い技術練習を行った。そしてその間に技術レベルを指導員がチェックし、講習終了後にメインコースへの受講許可者を通達するというものであった。

メインコースへの受講者は男性5名であった。メインコースでは、初日の技術練習と2日目の技能とティーチング試験であった。2日目の試験では、技能はクラシック種目のダイアゴナル・ストライド、ダブル・ボーリング、一方、スケーティング種目ではフリースケーティング、オフセットスケーティング、スノープローターン(＝ブルークターン)であった。ティーチング試験では受

験者同士で講習会体制をつくり、交互に講師と受講者になって技術解説とデモンストレーション及び各実施者への技術コメントを行うというものであった。このティーチング試験にはブレーキング・スノーブローが加えられた。CANSI クロスカントリーインストラクターライセンス・レベル1取得。

2. キャンパスレクリエーションのスポーツプログラム体験からの感想

このようなシステムあるいは環境に接していると、当然のことながら日本における大学体育・スポーツ環境と対比せざるを得ない。日本では大学改革や大学体育改革の渦中にあるだけに、いろいろと考えさせられるところだが、何分互いの文化的背景が大きく異なっているだけに、その絶対的な比較をしたところで、その中身を議論するには無理なところがある。とはいうものの、このキャンパスレクリエーション・システムから学びとる点は数多くあるように受けとめてきた。

1つはスポーツ活動の母体をキネシオロジー学部を持つ大学内に設置していることで、豊富なスポーツ施設を有効に活用できるということである。さらにこれによってさまざまなスポーツ活動の運営（講義等の教室の提供を含め）が容易であると考えられることである。健康・スポーツ市民大学というような教育的なニュアンスも伺えるところである。当然、規模が大きくなると独立した別組織の運営ということになるのであろう。

このような母体ができれば、あらゆるスポーツを経験できるようにその受け入れ体制も十分整えることもでき、利用者も、より気軽に利用しやすくなるといえる。提供コースが豊富になると時間的に余裕がない人々にもその利用・参加が容易になる。さらに、運営面に余裕ができれば各開設コースでの必要用具の準備はもとよりアウトドアスポーツ用具（カヌー、カヤック、ボートを始めフルシーズンの海、山の大型用品等）に関しても一般貸し出しを行えるほど品数も豊富に揃えることができる。

このようにいつでも体を動かすことのできる環境においては、個人の健康管理に対する自主性があれば単に身体を動かすだけの体育実技科目であれば必須できなくてもよいことが理解できる。世界的にも体育科目の必要性への議論が行われて久しいが、自宅から1歩外へ出れば運動場の様な環境を有しているところは、その議論も理解できぬわけではない。しかし、これを単純に世界の情報の伝達という形で日本のような運動する時間と場所がないとか、あるいはそれらがあっても何かと利用しにくいというような現状の中で現在の学校体育の不要論的なものを鵜呑みにすれば、現在ではまだ理解し難いが、運動の仕方をほとんど知らない、あるいは運動をやったことがないという者の出現、延いては高齢化社会という現象に「ひ弱な」という形容詞がつくことは想像に難くない。

義務教育の9年間及びさらにその後の7年間程の教育期間を修業したとしても、その間での学校体育によって加齢に伴う身体状況と生涯スポーツ、運動の仕方をマスターできるとは到底考えられないことであり、それ以後のライフスタイル、生涯体育を考える上では、全体としての生涯体育、

社会体育、スポーツ指導への環境整備が望まれるといえる。運動のできる場の提供ということになれば、とりあえず学校スポーツ施設の解放というところから始まるのであろうが、施設使用時の監督、管理、運動指導などあらゆる問題をかかえているところでは、どうしても中途半端的に流される傾向にあると察するところである。場所的な要素に加え、指導、安全面への配慮を地域あるいは広範囲、長期的な利用価値を基に整備することも必要であると考え。今回の調査を通じてこのような母体のしっかりしたシステムを確立できれば、より充実したスポーツ・レクリエーション活動を提供できると思うところである。その意味で筆者にとってこのキャンパスレクリエーションシステムの調査は良い刺激となった。また、導入、実現させるには相当の意識改革を必要とするであろうが、むしろ何かと改革が流行している日本にはタイミングがよいかもしれない。

大学体育実技に思うことは、日本では勿論、実施種目にもよるが1人の教員に対し40人あるいは50人というのがまだ常識的である。となると、もはや制度に対して如何に学生を効率よく捌くかということが焦点となり、所期の目的がぼけてくる。やる気がほとんど見られないような、成人になろうとする学生に対して、運動の効能を説き、何とか受講させようとすることは妙に思うところである。勿論、どこの国でもその類はいるであろう。重要と思うことは、日本全体として個々人の健康への自己管理、自主性構築への支援としての運動環境、施設の提供、そして大学においては特に身体並びに身体運動にかかわる知識と実践方法の教授にあると考える。

○キャンパスレクリエーション・システムを基にした本学へのシミュレーション

ほとんどの外れであるが、次のような構想を考えた。大学施設を母体とした国民への体育、スポーツ及びレクリエーション活動のライフスタイルへの無理のない浸透を目指し、たとえば大阪外国語大学付属アクティブスポーツモールと称する 20000 m² 程度で冷暖房完備（常温湿）の数階建ての一応独立組織の公認大体育館を構内に建設する。これは現在の本学の体育・スポーツ施設等（体育館、テニスコート、プール、ハンドボールコート、駐車場、学生寮等）の将来に向けての再整備にも相当する。むしろこの考え方はスポーツ施設を大学構内に建設することで大学関係者の利用（実技授業を含めて）が優先されるものの、一般者が気軽に利用できる施設というニュアンスに近い。外国人留学生の交流などが極めて盛んな本学を考えても、このような施設があってもなんら不自然ではないと考える。

メインフロアーにはバスケットボールコート4面分と 50 m の8コース競泳用プール、ファミリープールとし、他の階には格技場4面、トレーニング場、室内陸上用 200 m トラック6コース、弓道室、レクリエーション室、スポーツ指導員室、事務局及び受け付けカウンター、講義室および視聴覚ミーティングルーム、24時間国際スポーツ・シアター、レンタルルーム、更衣室、観客席、喫茶室、レストラン、スポーツショップ等を置く。また、スポーツ障害への対応としてスポーツ外来外科、理学療法室も必要となるであろう。勿論、十分な駐車場を同建物地下に設ける。これらの施設は全て車椅子等のスポーツ愛好者の利用が可能なように設計する。

開館時間は長時間とし、大学授業としての体育実技、留学生日本語センター留学生のスポーツ実技および課外運動部の使用時間をある程度優先し、それ以外を解放時間（オープンレクリエーション）および公認スポーツ指導員（勿論、国の内外は問わず）によるスポーツスクーリング・プログラム時間帯とする。ここで小学校体育・スポーツなども考えられても良い。公認スポーツ指導員、事務局員は専任職員である。また、公認スポーツ指導員は課外運動部のコーチを兼任すると大阪外大運動部の競技力向上も期待できる。使用は有料とする。同様に屋外種目に対する施設（テニスコート、屋外運動場等）の再整備を行う。大学付属のユニークな国立スポーツセンターになることは間違いない、はず。

謝辞：本稿をまとめるにあたり、ご協力をいただきましたカルガリー大学, キャンパスレクリエーションディレクター ROB J. K. STINSON 氏に深謝いたします。

(1996. 3. 28 受理)